

+

## 4 漁場環境調査

### (1) 伊勢湾三河湾水底質調査

伊勢湾三河湾の水質及び底質の現状を知るため、前年度に引き続き関係水産試験場が協力し合って実施した。

#### 1. 調査計画の概要

調査機関及び担当海域

愛知県水産試験場……………三河湾及び伊勢湾の一部(湾口南東部)

三重県伊勢湾水産試験場……………伊勢湾

調査時期及び回数 一般調査月1回,年12回

精密多項目調査 年5回(愛知水試S 45.5・7・9・11  
S 46.3月)

調査点の位置及び数, S 44年度報告参照

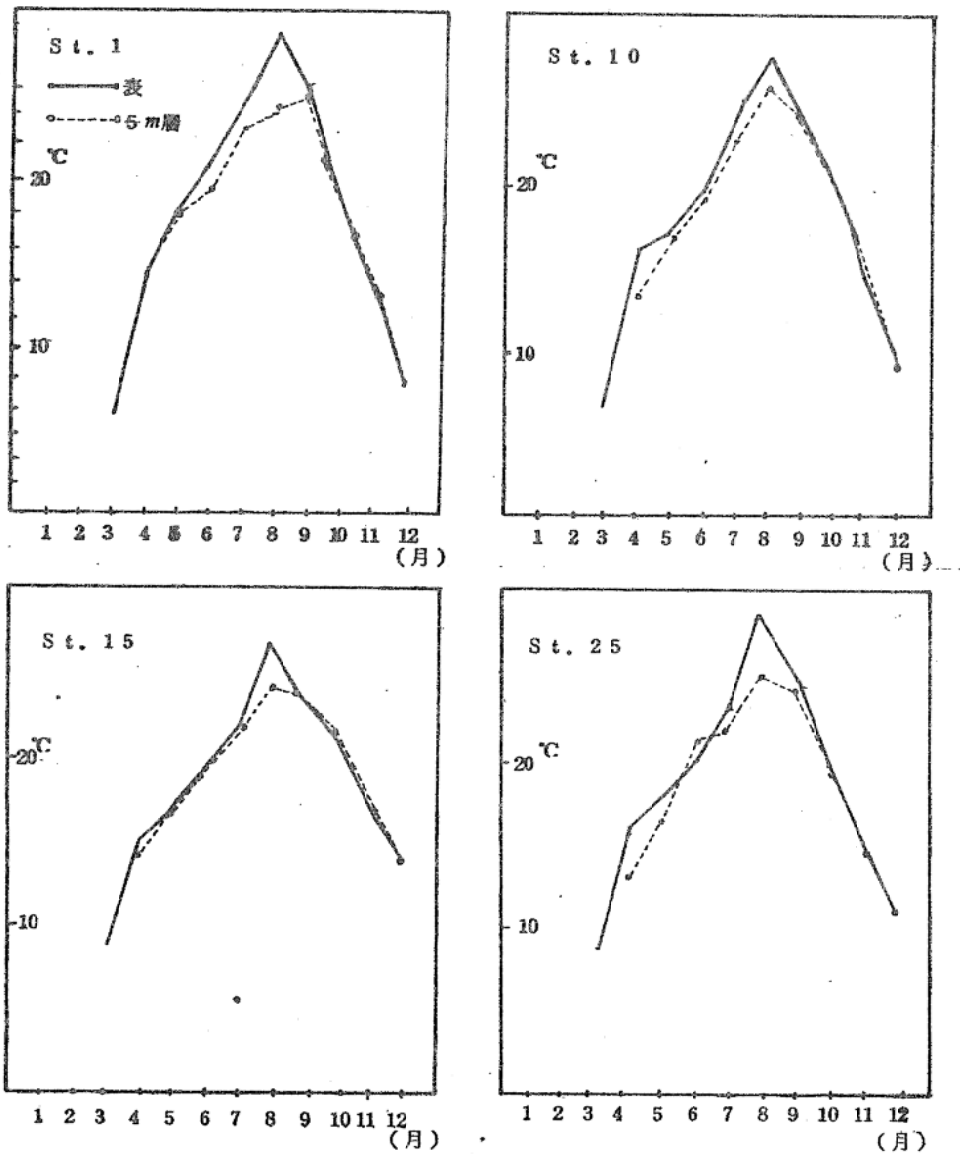
#### 2. 調査項目及び結果の概要

ア 水質調査

イ 水温

三河湾内の水温は夏期7月下旬頃より,9月下旬にかけ最高を示し,冬季は2月から3月にかけて最低となる。その差は約20℃,また,湾口部と奥部の差は±2~3℃となっており,この傾向は昨年と同様である。本年の水温の垂直月別変化を湾奥部,湾中部,知多湾奥部のSt1,St10,St15,St25で表わしみると第1図となる。

第1図 表層, 5m層水温の月別変化 (45年)



(イ) 塩素量

湾内の塩素量は1.4～1.8%台の範囲にあり, 表面については降雨量の多寡に影響され, 特に梅雨期明けに顕著にあらわれる。

(ウ) 透明度

一般に湾奥部に向い程低くなる。湾口部は5～8mで次第に2～3mとなる。湾全域の値が高くなるのは11月とされてきた。本年も同様な傾向を示してきたが, 11月には入って湾口部よりも湾奥部の方が高い値を示した。

(ハ) 溶存酸素量(DO)

7月から9月にかけて極めて低い値を示し, 特に9月には渥美湾奥部から湾中央部にか

けてと、衣浦湾のうち、知多半島東岸部に低酸素域が拡大していた。

(a) 化学的酸素要求量 (COD)

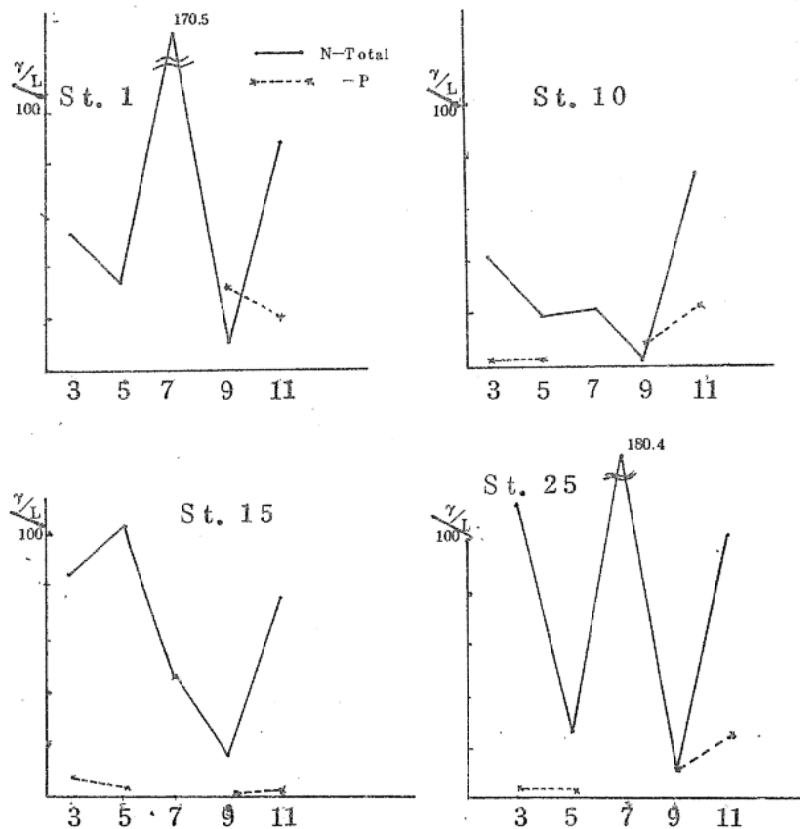
5~7月にかけて高く、特に7月に湾奥部、中央部、湾口部に表面底層とも極めて高い値があらわれた。この間、立馬崎~伊良湖周辺に高い値があらわれたが、これは立馬崎におけるシーバースのしゅん濩によるものと思はれ、その後は次第に正常化に向った。

(b) 栄養塩 (NP)

一般には、湾奥部が高い傾向にあるが窒素三態の計において9月には渥美湾奥部で trace の範囲が現われ、11月には回復している。

そこで、表層の全窒素と磷酸を水温と同じく湾奥部、湾中央部、湾口部、衣浦湾奥部の St 1, 10, 15, 25 について図示すると第2図のとおりである。

第2図 表層の全窒素と磷酸 (r/l)



## イ 底質調査

底質は水質と異なり、その変化速度は比較的小さく水質変化の影響が累積的に反映される場合が多いので水質調査、底生生物調査にあわせて実施した。

### (ア) 微細泥率と化学成分

一般に微細泥百分率は底質を取り扱う上において最も基本的な要素であり、COD、硫化物、強熱減量等の化学成分とも密接な関係がある。

微細泥百分率と化学成分の間には大略比例の関係にあり正常泥は直線上に分布し、調査時の正常泥を基準にしてそれより外れる地点は何らかの理由による異常な地点である。

衣浦港、蒲郡港、幡豆郡地先、豊川沖、河和沖にCOD、硫化物の多い地点がみられた。

微細泥とは200メッシュのフルイで通過した泥とする。

### (イ) 硫化物( $H_2S$ ) COD、強熱減量

一般に生物はPH、DO、水温等の変動に対してはかなりの適応性を示すが $H_2S$ に対しては極めて敏感の様に思われる。

硫化物は9月に最も多く衣浦港、蒲郡港附近に悪化した地域が局部的に見られた。

CODは7月に最高となり西浦半島より渥美湾の中央部にかけて高い地域が形成されている。9月には $30\text{ mg/g}$ 以上の地域は渥美湾中央部に限られ11月には $30\text{ mg/g}$ 以上の地域は消失した。有機物の指標として強熱減量を測定したが衣浦附近、西浦を中心とした渥美湾北岸に高い地域があった。

### (ウ) 酸化還元電位差

内湾では有機物をはじめ、種々の還元性物質の堆積が多いために、底生生物や環境水への影響が大きいものと思われる。総合的な指標として酸化還元電位差を測定した。5月には外洋水の影響が大きいと思われる師崎水道、日間賀、佐久島、矢作川河口にかけ $-200\text{ mV}$ の地域が形成され、三月の調査結果と殆んど変化はなかった。7月には湾口部を除いて三河湾全域が $-300\text{ mV}$ 以上となり $-400\text{ mV}$ 以上の地域は渥美湾の大部分を示した。特に蒲郡～西浦～幡豆の沿岸に $-450\text{ mV}$ 以上の悪化した地域がみられた。

44年度には $-450\text{ mV}$ 以上の地域はみられず、湾口部より矢作川河口にかけては $-300\text{ mV}$ 以下の地域はみられたが、本年度は全域 $-300\text{ mV}$ 以上となり昨年より悪化している。9月には7月と同様な状態で推移したが特に $-400\text{ mV}$ 以上の地域が拡大した。11月にいたり、環境条件が好転して $-450\text{ mV}$ 以上の地域は消失し、 $-400$

mV以上の地域も蒲郡港附近に限られている。この傾向は前年と同様であるが渥美湾奥部の回復がやや遅れているようである。

#### ウ 底生生物調査

底生生物は水域の気象，海況等環境条件の一時的な変化から受ける影響が比較的少ないという特異性を応用することによって総合的な環境を把握できるので，水質調査にあわせ前年同様5.11月の2回調査を行なった。調査の実施に当っては東海区水産研究所の指導により種の同定等を行なった。

#### (ア) 本年度調査の要約

西浦を中心とする湾中央部の種類数，個体数が少ない事は前年同様である。

渥美湾北部沿岸は軟体類が50%以上を占める地点が大部分である。

北岸以外の地点では多毛類が50%以上を占めている。

昭和44年にくらべ湾奥部では軟体類が非常に減少したことが大きな変化である。

#### (イ) 昭和44年の調査結果との比較は第1表，第3図のとおりである。

総体的に種類数，個体数，重量とも減少しとくに軟体類の個体数，重量の減少が著しい。軟体類以外の重量がやや増加しているが，これは45年は大型のオカメブクが多数採取されたためである。

組成でも軟体類は非常に減少し，甲殻類もやや減少している。逆に多毛類はかなり増加し“その他”もやや増加している。

湾の東奥部から中央部にかけて44年より総合的な環境条件は悪化しているものと思われる。

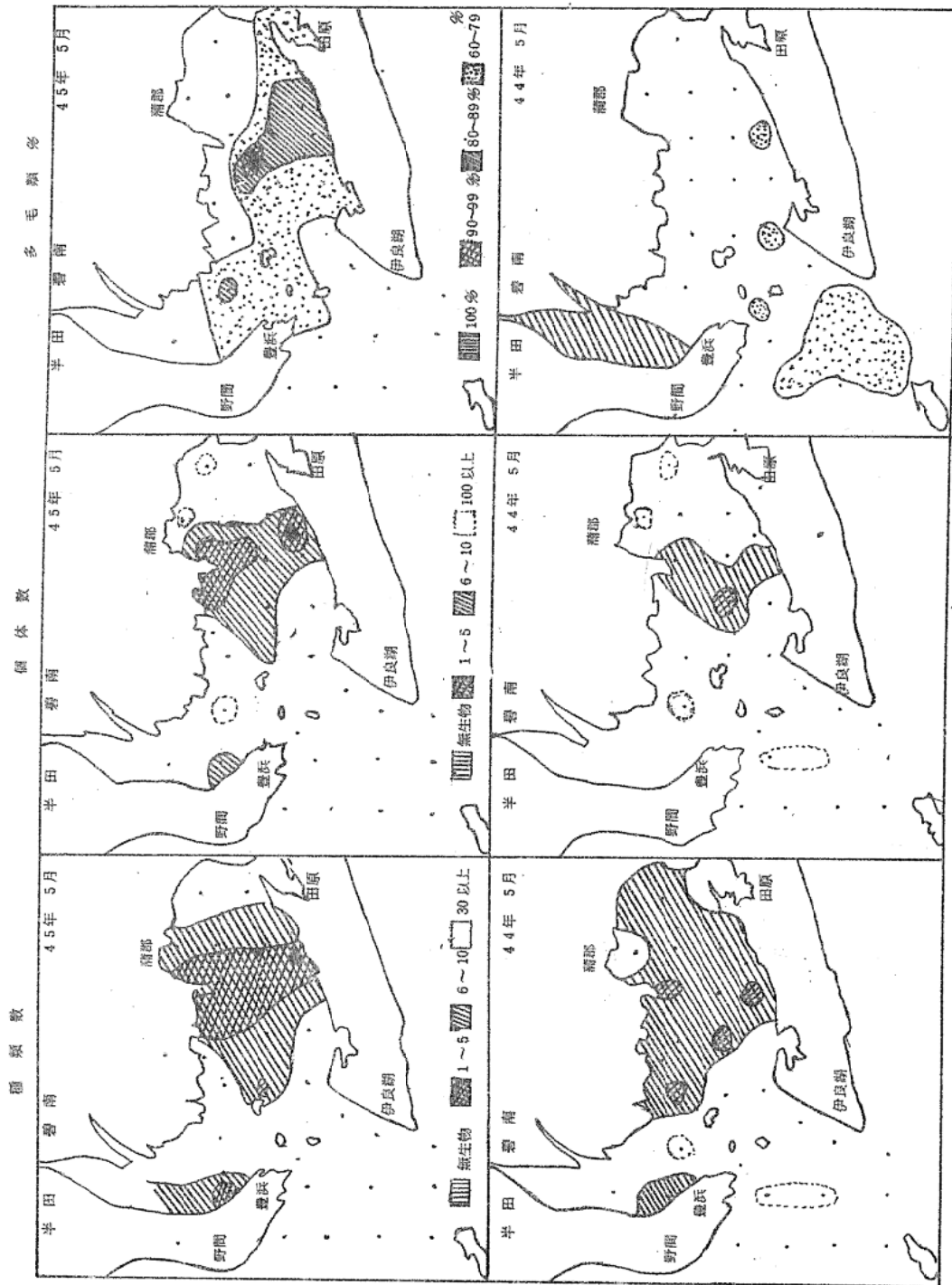
第1表 44年，45年底生生物数の比較

		昭和45年	昭和44年
採集地点数		23	20
平均種類数		10.3	12.4
平均個体数		44.9 (33.1)	432.6 (50.8)
平均重量	軟体数	1.48	9.64
	軟体数以外	3.06	2.27
	合計	4.54	11.92
個体数百分率	多毛類	43.7 (59.2)	4.9 (41.8)
	軟体類	18.0 (24.3)	87.4 (40.8)
	甲殻類	29.3 (4.3)	6.3 (5.9)
	その他	8.9 (12.0)	1.3 (11.3)

註：カッコ内は，昭和45年5月，St2で端脚類が270個体，  
昭和44年5月，St1でホトトギス，7,150個体，端脚類  
486個体が採集されたのを除外した数値

個体数	多毛類	452	426
	軟体類	186	7565 (415)
	甲殻類	303 (33)	547 (61)
	その他	92	115
	計	1033 (763)	8653 (1017)

第3図 底棲生物



## エ 大型底生生物調査

### ㊦ 調査目的

伊勢，三河湾水底質調査の一環として，三河湾の大型底生生物の分布を把握するために行った。

### ㊧ 調査時期

第1回 45. 6      第2回 45. 8      第3回 45. 11

### ㊨ 調査方法

湾内に17点のStを設定し，貝柵網着業船（4.99トン，D35ps）を利用し，貝柵網（柵巾210cm，袋網7節）により，各点を3～4ノットで5～10分間曳網採取し，それぞれ個体数をチェックし，有用種については体長重量の計測を行なった。

### ㊩ 結 果

各月，各地点毎の種類別個体数については一応三河湾を6海域にわけて $10^3m^2$ 当りの魚類，甲殻動物，軟体動物，棘皮動物，原索動物，環形動物にわけ，その分布の百分率を示したのが第4図である。

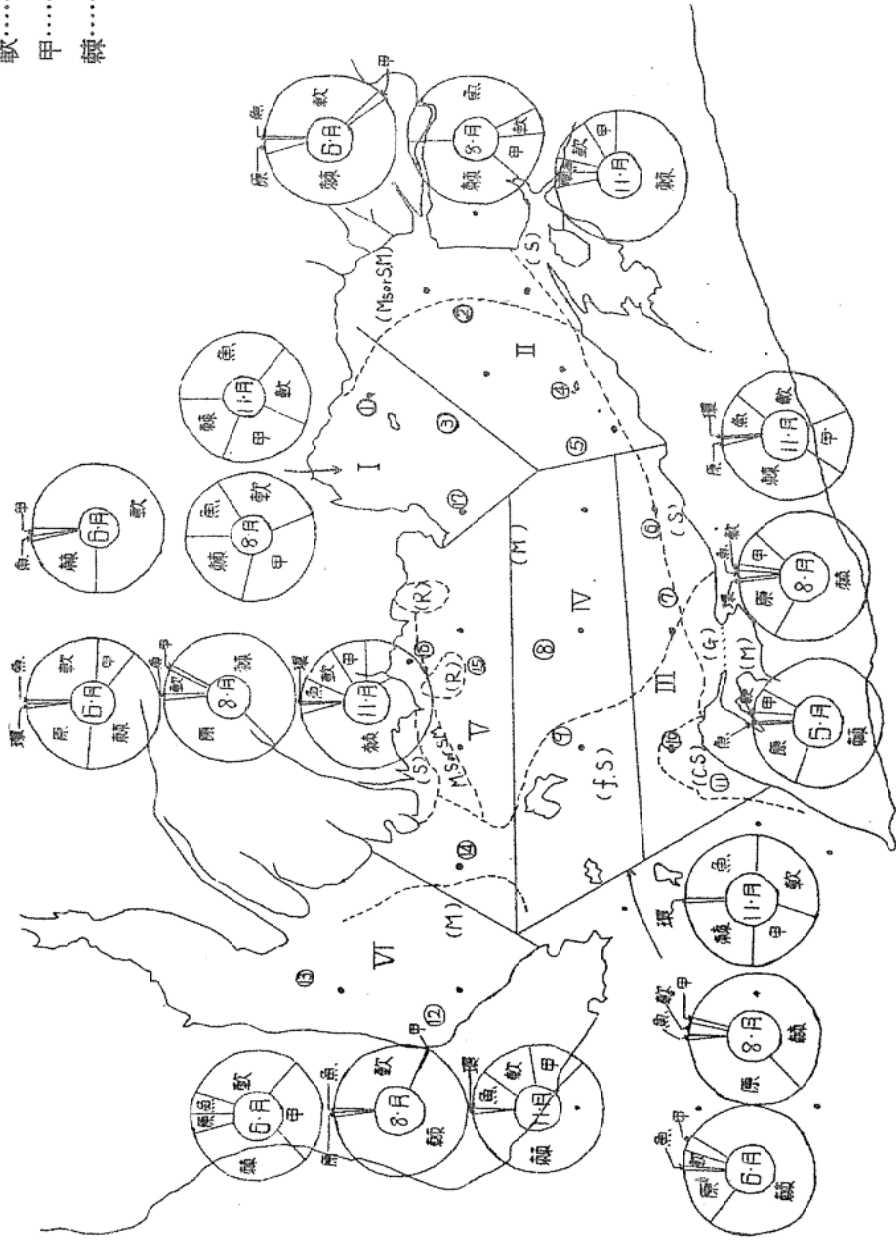
又，種類数をみると魚類についてはカレイ類，メゴチ，ハゼ，キスなど14種，甲殻動物についてはフタホシイシガニ，サメハダヘイケガニ，シバエビ，ヨシエビ，シャコ，ヤドカリなど19種，軟体動物ではモガイ，トソガイ，ツメタガイ，アカガイなど18種，棘皮動物はヒトデ，スナヒトデ，ヒラモミジガイ，オカメブブンクなど11種，原索動物はエボヤなど2種，環形動物はゴカイなど4種が採捕されている。

種類数の多い海域はⅦの衣浦湾，Ⅱの渥美湾であった。



第4図 1000 m<sup>2</sup>当り個体数百分率

- 魚.....魚類
- 軟.....軟体動物
- 甲.....甲殼動物
- 棘.....棘皮動物
- 原.....原索動物
- 環.....環形動物
- .....水底調査点
- △.....曳網位置



N  
4  
S: 1/200,000

オ 人工クラゲによる底層流調査

(ア) 調査目的

海水の汚染は、陸上産業の発展に比例して進行している。このため近年赤潮は冬期でも見られ、夏期湾内での魚貝類の斃死、藻類の病害発生による不作等恒常化している。水温、塩分、溶存酸素量、栄養塩等の海水の諸要素の分布を支配する物理的要因の主なもの海水の流動状況である。特に夏期の海水の交換が停滞する時期に悪化しやすい。

これらの原因を解明して湾内の地域的な特性を察知するため底層流の調査を行なった。

(イ) 調査日時

45年10月14日 10時(愛知水試)

(ウ) 調査(放流)地点と放流個数

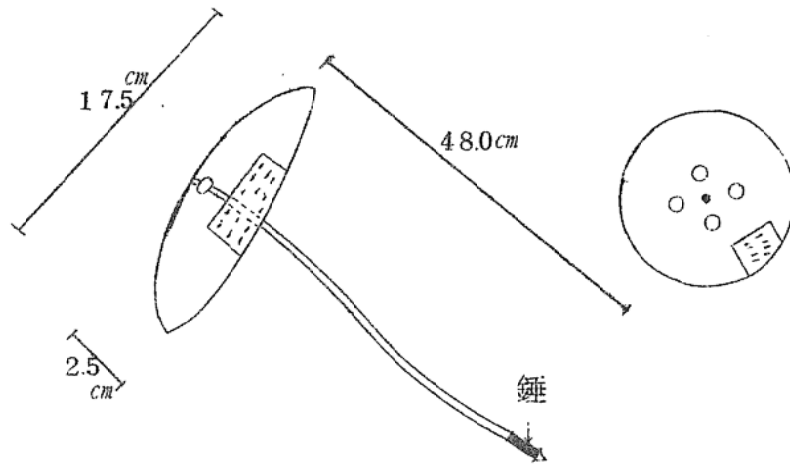
第2表, 5図のとおりである。

(エ) 調査方法

人工クラゲを放流地点で底層にしずめ拡散した人工クラゲを湾内外で操業の当業船に再捕を依頼して回収し、その日時、位置を報告してもらい、流動を予測する。

(オ) 人工クラゲ

- A 本体……クラゲの笠と足はポリエチレン製である。笠の直径は17.5cm, 厚みは1.5mmであるが皿のように凹んでおり、凹みの深さは約2.5cmである。笠には4個の内径1.7cmの穴があけてある。足の長さは約50cm, 太さは約5mmである。笠と足の総重量は約35gであるがこれのみでは海面に浮上してしまふ。
- B 固着錘……長さ約3.5cm, 重量約5gの真ちゅう製管状のもので、クラゲの足の末端付近に固着されている。
- C ラベル……6cm×5cmのステッカーでクラゲ番号、回収に関するデータの報告依頼項目などが印刷されている。



第2表 人工クラゲ放流地点と放流個数

St	位置	放流日時	標識番号	放流個数
I	N 34°-45.4' E 137°-11.3'	10月14日	001	100ケ
		10時35分	002	100ケ
II	N 34°-44.1' E 137°-13.5'	10月14日	009	100ケ
		15時20分	0010	100ケ
III	N 34°-42.9' E 137°-14.6'	10月14日 15時00分	008	100ケ
IV	N 34°-44.1' E 137°-07.5'	10月14日 11時08分	003	100ケ
V	N 34°-43.8' E 137°-06.4'	10月14日 11時26分	004	100ケ
VI	N 34°-40.0' E 137°-07.7'	10月14日 14時07分	007	100ケ
VII	N 34°-33.9' E 137°-00.5'	10月14日	005	100ケ
		13時00分	006	100ケ



(カ) 調査結果

(省略)

以上は昭和45年度における調査の概要であるが、その詳細については、昭和46年1月刊行の「昭和45年度、伊勢湾・三河湾水底質調査。付・赤潮調査報告」及び「水産海洋研究会報」第18号(1971年3月)により報告されているので本事業報告では省略する。

(2) 全国漁場環境保全基礎調査

I. 愛知県伊勢湾水域

(常滑地先)



# 項 目

ま え が き

## I 伊勢湾水域（常滑地先）

### 1. 社会経済的調査

- (1) 常滑市の産業の現状と将来計画
- (2) 常滑地先における漁業の概況
- (3) 水質汚濁の漁業に対する影響と措置

### 2. 水域の理化学的環境調査

- (1) 気 象 条 件
- (2) 水 質
- (3) 底 質
- (4) 湖 流

### 3. 水域の水質に関する生物学的調査

- (1) 生物相調査  
ア 底生生物  
イ プラクトン
- (2) 生物試験

### 4. 総 括





# I. 伊 勢 湾 水 域 ( 常 滑 地 区 )

## 1. 社会経済的調査

### (1) 常滑市の産業の現状と将来計画

#### ア. 常滑市の産業の現況

常滑市は知多半島中央部、伊勢湾に面する中核窯業都市で、人口は53,044人、人口推移状況はほぼ横ばいである。就業人口は28,877人で、産業別にみると、第一次産業17%、第二次産業56%、第三次産業27%で、窯業、土石製品関係の工業が伝統的にさかんである。市内には、小規模工場が多く、工場総数は719に及ぶ。うち、窯業関係の工場が480を占め、建築陶器、衛生陶器、陶管、鉢類、玩具、花器などを製造して海外にも輸出している。このほか、繊維、食料品関係の工業がこれに次いで盛んで、市の周辺部で知多もめんの生産が行なわれ、また、野菜の栽培、のり養殖もおこなわれている。

## 市 町 村 別 人 口

第1表

区分 男女別 市町村別	昭和35年			昭和40年	
	男	女	計	男	女
東 海 市	17,254	16,711	33,965	30,774	26,295
知 多 町	15,511	17,091	32,602	16,970	17,769
常 滑 市	24,530	27,394	51,924	24,873	27,942
計	57,295	61,196	118,491	72,617	72,006

## 市 町 別 人 口 流 動

第2表

(昭和43年)

	東 海 市	知 多 町	常 滑 市	計
他市町村へ	7,770	3,132	2,553	13,455
他市町村から	15,067	3,449	2,354	20,870
増 減	7,297	317	△ 199	7,415

## 市 町 別 就 業 人 口

第4表

区分 市町村	人 口				産 業	
	総 数	15才以上	労働人口	就業人口	総 数	第 1 次
全 県	4,798,653	3,648,679	2,516,488	2,493,860	2,493,860	338,596
地 区	144,623	109,088	76,197	75,617	75,617	13,252
東海市	57,069	42,197	28,845	28,559	28,559	3,814
知多町	34,739	26,727	18,311	18,181	18,181	4,525
常滑市	52,815	40,164	29,041	28,877	28,877	4,913

(愛知県統計年鑑)

昭和44年(45.1.1)			
計	男	女	計
57,069			82,284
34,739			38,871
52,815			53,044
144,623			174,199

市町別世帯数

第3表

	東海市	知多町	常滑市	計
世帯数	21,023	9,025	12,608	42,656

(昭和40年国勢調査)

別就業人口					第1次産業		
%	第2次	%	第3次	%	農業	林業	水産業
14.0	112,797 <sup>人</sup>	45	1,027,288 <sup>人</sup>	41	321,325 <sup>人</sup>	27,28 <sup>人</sup>	145,43 <sup>人</sup>
17.5	40,844	54	21,521	28	12,319	14	919
13.0	16,415	57	8,330	30	3,757	13	44
25.0	8,260	45	5,396	30	4,500	-	25
17.0	16,169	56	7,795	27	4,062	1	850

## 産業構成別就業人口

第5表

市町村別 産業別	東 海 市	知 多 町	常 滑 市	総 計
農 業	3,757人	4,500人	4,062人	12,319人
林業・狩猟業	13	-	1	14
漁業・水産養殖業	44	25	850	919
鉱 業	4	3	18	25
建 設 業	3,657	1,558	1,042	6,257
製 造 業	12,754	6,699	15,109	34,562
卸売業・小売業	3,367	2,239	3,597	9,203
金融・保険・不動産業	356	295	310	961
運輸・通信業	1,720	795	985	3,500
電気・ガス・水道業	161	240	113	514
サービス業	2,334	1,563	2,403	6,300
公 務	390	263	383	1,036
そ の 他	2	1	4	7
総 計	28,559	18,181	28,877	75,617

## 業 種 別 工 場 数

第6表

業 種 市町村	東 海 市	知 多 町	常 滑 市	総 計
食 料 品	44	18	43	105
織 維 工 業	18	84	96	198
衣 服 身 回 品	10	11	9	30
木 材 同 製 品	7	11	19	37
家 具 装 備 品	4	3	13	20
紙 同 製 品	4	4	13	21
出 版 印 刷	4	5	4	13
化 学 工 業	4	—	—	4
石 油 石 炭 製 品	3	—	—	3
ゴ ム 製 品	2	1	—	3
皮 革 同 製 品	1	1	—	2
窯 業 土 石 製 品	12	17	441	470
鉄 鋼 業	13	1	6	20
非 鉄 金 属	4	—	—	4
金 属 製 品	28	22	14	64
機 械	15	16	21	52
電 気 機 器	1	3	1	5
輸 送 機 器	8	7	6	21
特 殊 機 器	1	1	—	2
武 器	—	—	—	—
そ の 他	29	13	33	75
総 計	212	218	719	1149

排水を放流している主な工場は第7表に示したが、紡績工場、製陶工場がその大半を占めている。これらの排水は河川を通じて常滑港や伊勢湾岸に放流されて、時には部分的に海水を褐色にすることもあるが、量的には少ない。海岸線には海水浴場もあり、夏季には、名古屋方面からの家族連れなどでにぎわっている。

# 主な工場とその排水量

$m/day$

第7表

工場名	所在地	業種	特定施設	排水量	放流先
東海市					
雀白織布(合名)	東海市横須賀	織布	煮沸槽	2.5	養父川
大同機織機株式会社工場	高松須賀町	特殊鋼材製造	圧延 酸洗槽	7200	下水→伊勢湾
半田鋼業(株)	" 榊形1	金属工業	酸洗 亜鉛メッキ	250	貯水槽→横須賀川
東海製鉄(株)中薄板工場	加藤新田地先	鉄鋼業		$681 \times 10^3$	伊勢湾
久保田鉄工(株)東海工場	"	鉄鋼物産	表面処理	50	排水路
藤田鐵造(株)	荒尾町	"		40	伊勢湾
東海製鉄(株)	加藤新田地先	鉄鋼業	酸洗 熱処理	$35 \times 10^3$	"
富士三機鋼管(株)名古屋工場	"	鋼材製造	圧縮機	500	太田川→伊勢湾
日東亜鉛鍍金(株)名古屋作業所	"	鋼管の亜鉛鍍金	亜鉛鍍金炉	300	"
愛知県製鋼(株)知多工場	荒尾町	製鋼業	圧延 熱処理	51563	伊勢湾
名古屋油化学(株)	南柴田町ホの割213-5	高分子化学製品の製造	ポイラー反応槽	100	土留川
東海製鉄(株)鍍金工場	加藤新田地先	鉄鋼業		$712 \times 10^3$	伊勢湾
中京ココロコーポラボトリング(株)第三工場	南柴田町トの割266の18	清涼飲料水	水洗	800	名古屋港
㈱日東電気化学工業所名古屋工場	" 266の15	アルマイト加工	水洗	2000	"
イチビキ(株)第2工場	高松須賀町, 烏帽子35の1	みそ, しょうゆ, つゆの素製造		150	公家川
富士製鉄(株)名古屋製鉄所	東海町5丁目3	鉄鋼業	酸洗	$1680 \times 10^3$	伊勢湾
柏商工(株)	" 3丁目7	鉄板矯正, 剪断加工		3	名古屋港

大同熱処理工業㈱	名和町南三ヶ月12の1	金属熱処理		90	土留木川
矢橋工業㈱名古屋工場	東海町5丁目3	石灰石焼成		500	名古屋港
(有)菊田鉄工所	南柴田町の割95の26	鉄工		100	土留木川
東海延長鋼業㈱	〃 〃の割138の10	鉄鋼製造		20	天白川～名古屋港
(株)名古屋サンソセンター	東海町5丁目3 富士製鉄㈱構内	酸素ガス等製造		1,500	名古屋港
東海アサノコンクリート(株)東海工場	新宝町29	生コンクリート製造		30	
播磨耐火(株)東海製造所	荒尾町加塚94-5	耐火煉瓦製造		300	富士鉄下水道
名古屋造船船務㈱	新宝町22	金属製品製造	表面処理	200	土留木川
石原工業㈱東海工場	南柴田町の割95の25	鉄骨、橋梁組立		150	
東海ドラム㈱	南柴田町地先	金属製品製造	表面処理	48	名古屋港
東亜樹脂工業㈱本社第1工場	新宝町30の2	塩化ビニールパイプ製造		700	土留木川
芙蓉鋼板加工㈱	南柴田町の割	鋼板断切加工	剪断機	4	天白川
三和実業㈱名和倉庫	名和町南三ヶ月33-1	製鉄副資材、機械部品	シャーリング	3	〃
(株)大洋プラスチック工業㈱本社工場	荒尾町片坂8	プラスチック成型加工		30	
日本触媒化学工業㈱名古屋ターナル工場	荒尾町加塚新田地先	化学工業		220	伊勢湾
知多町					
(株)佐藤実業	知多町岡田字海渡66	鉄工業		2	日長川
丸登織布㈱	岡田字登り29	綿スプ織物製造	ボイラー	800	石小川
三興発条㈱	八幡字荒古後70	自動車部品		2.6	下水路～信濃川
不二製鉄㈱本社工場	新宝町15	研削砥石製造	カドミメッキ槽	50	側溝～恵水路～美濃川



工場名	所在地	業種	特定施設	排水量	放流先
西尾織布(株)	知多町新田字釜ヶ淵54	綿スフ織物製造	ポイラー	1	側溝→用水路→美濃川
丸田晒(株)	岡田字奥碑子32	晒	漂白, 酸処理	100	日長川
大洋飼料(株)名古屋工場	八幡地先	飼料製造		30	直接名古屋港
日清粉(株)名古屋第2工場	南部築三区埋立土地内	"		100	"
錦今井製粉	新舞子大口10	陶器玩具製造		200	下水路
常滑市					
カネ金製陶所	常滑市多屋字角兵工新田30	陶磁器製造		50	中間槽→側溝→悪水路
(株)美濃屋製作所	保示227	鉄骨板金加工		125	下水→伊勢湾
(株)愛知製陶所	字野間口75	製陶		5	悪水路→口田川
東宝産業(株)	字会家前27	砥石製造		30	排水土管→口田川
盛田(株)	小鈴谷	醸造		170	暗渠→海
愛知紡績(株)常滑工場	榎戸	紡績		2,630	悪水路→伊勢湾
新居織布工場	西阿野字春瀬180	綿スフ織物製造		6	下水→唐崎川
一青陶園	字前田48	花器製造		5	大落川
(株)船井製陶所	西阿野唐崎89ノ1	モザイク, タイル製造		4	側溝→唐崎川
常滑タイル(株)	字三ツ池11	窯業その他土石工業		8	側溝→下水道
(株)仁左松製陶所	字太田97	陶管製造		10	側溝→水路
(株)牧野鉄工所	三ツ池24	機械器具金属工作機械製作		10	下水
山種モザイク	字長峰4の切	窯業モザイク製造		65	

日本除染陶	字士野毛36	衛生陶器製造	100	側溝→口田川
藤井製陶社	多尾字森西10	"	60	側溝→下水路
檜原工場	檜原字來明5	"	30	"
(株)みやま製陶所	字奥栄91	花器製造	15	下水→大落川
陶栄(株)	字狐塚56	製陶	7	懸水路→浜田川
常滑製陶(有)	字小森11	陶管製造	3.5	下水溝→田地
明和タイル(株)	字多屋西新田西57	モザイク製造	50	用水路
(株)山文製陶所	字宮下101	陶磁器製造	3	側溝
滝田繊維工業(株)	梅水字山の神60	繊維物製造	70	懸水路→梅水川
(株)田中製陶所(本社)	字草木口20	プロック・タイル製造	11	下水路→大内川
(大倉工場)	大倉開発地312	タイル製造	7	側溝→大内川
西浦製陶(株)	西野字曹崎184	衛生陶器製造	17	側溝→伊勢灣
愛知陶管工業(株)三ツ池工場	字三ツ池	陶磁器製造	5	側溝
三井組製陶所	字浮仙坊27	製陶所	1.5	懸水路
西浦製陶(株)大野工場	大野町字高須47	衛生陶器製造	32	側溝→新川
(株)朝日製陶所	釜脇30の21	陶器 陶管製造	2.5	懸水路
(株)核江製陶所	字野間口73の1	陶磁器製造	1	側溝
(株)滝田陶管	字郷枝15の1	陶管	108	側溝→口田川
(株)杉本製陶所	字前田59	陶磁器製造	1	側溝→大落川
(株)後藤鐵造所	字長峰4の切	鍛冶器物の製造	1	
山弥製陶(株)	字口田42	製陶	1	口田川

工場名	所在地	業種	特定施設	排水量	放水量
傾小嶋製陶所	常滑市字狐塚8の7	モザイク、タイル製造		1	側溝一川
傾石川隆泰製作所	大野町字砂鍛市10	ばね座金製造	酸洗 硝子槽 塩酸槽	20	下水道一海
傾谷川隆製陶所	原松55	陶磁器製造		1	浜田川
(有)秘色焼製陶所	字会家前29	製陶		2.5	悪水路一口田川
丸武紡織製陶工場	傾戸字南名残1	紡績		5,000	池一伊勢湾
東陽製陶(有)	字梶開口7の1	建築陶器		13	下水道一大落川
伊奈製陶株式会社工場	字藤面新田中300	タイル、衛生陶器製造	洗浄塔	1,080	常滑港
常滑東工場	字梶開口5	タイル製造		300	側溝一大落川
豊和製陶(有)	多屋字本郷	窯業		0.5	権次郎川
(有)後藤鉄工所	字長峰4の切	窯業用機械の製造	クロームメッキ槽	7	悪水路
キング砥石(有)世木工場 大曾工場	字会家前27	窯業砥石製造		4	側溝一口田川
傾竹内鉄工所	西之口字村前45	鍛工品製造		6	
日本耐熱工業(傾)大流第2工場	字中大流39	製陶		4	農用排水路
				4	下水一大落川